

いこい通信

第14号

2022年2月

発行 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

「いこい通信」は、宮城県内で避難者支援にあたられている方々に、福島県からの県外避難者（広域避難者）の置かれている状況や、宮城県内・他地域における支援活動の様子等をお伝えする情報紙として発行しています。自らの意思に反して全国への分散避難を余儀なくされた方々が、避難先で適切な支援につながっていくための一助となることを目的としています。

■ 広域避難者支援に関する情報交換会を開催しています

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故から約11年が経過した現在でも、全国で3万人以上の方が、市町村域や都道府県域を超えた「広域避難」を余儀なくされています。

宮城県内には、全国で3番目に多いおよそ2,700名の広域避難者が滞在していますが、その7割超の方が、受入地域（宮城県・市町村）によって把握されていない状態にあります。全国ではこの割合は3割程度となっており、宮城県内における広域避難者の把握状況の悪さが浮き彫りとなっています。（2021.10.30 河北新報）

このような状況を改善するため、昨年度に引き続き、宮城県社会福祉協議会が主催する会議「福島県から宮城県へ避難されている方への支援 情報交換会」と連携して、情報交換の機会を提供しています。

<第1回>

日時 2021年6月11日（金）13:30～15:30

会場 仙台ビジネスホテル 第1会議室
（Zoom ミーティング併用）

内容 昨年度の取組結果と参加機関・団体の今年度の事業計画を情報共有した上で、今年度の取り組みについて協議。
避難元支援者との情報交換会を行うこととしました。



<第2回>

日時 2021年11月29日（月）13:30～15:30

方法 Cisco Web ミーティング

ゲスト 社会福祉法人浪江町社会福祉協議会
池崎 悟さん、菊池 康子さん

内容 これまでの広域避難者支援の取り組み（宮城県、浪江町）について情報交換した後、今後の広域避難者支援の方向性や、避難元・避難先の支援機関が連携できることについて意見交換しました。

これらの情報交換は、日本財団助成事業「広域避難者の繋がり維持・充実に向けた伴走支援の実施」の一環として開催しました。今後も引き続き、このような機会を設けていきますので、ぜひご参加ください。

宮城県内で活動されている広域避難者グループ紹介

(1) フレンドリー東北

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響により、福島県から宮城県内に避難されている方（広域避難者）は現時点でも 2,726 名にのぼります。（2022 年 1 月 福島県発表資料）

避難生活が 11 年目に入中、宮城県内でも、いくつかの広域避難者の集まりや、そういった集まりを支援する動きが続いています。今回は、福島県双葉郡大熊町から避難された方で結成された「フレンドリー東北」の皆さんの活動を紹介します。会長の木幡伸夫さんにお話を伺いました

設立までの経緯

避難してきてから、最初の 5 年間はあっという間でした。私も、孫たちの学校のことなどもあって、バタバタしていました。その頃は、大熊の皆さんとの集まりはありませんでした。仕事のつながりなどはありませんでしたが、それ以外はなし。車のナンバーがいわきの方を見かけると声をかけたりしていました。

原発事故から約 5 年経った 2016 年 2 月 6 日に、大熊町復興支援課（現在の生活支援課）が東北 6 県に避難している人たちに呼び掛けて、初めて懇親会を開催しました。現在の状況や悩みといったことを話し合う場で、大熊町民 40 名ほどが集まりました。遠くは青森県の大間町から参加された方もいました。

当時はまだ互いにどこに誰がいるかわからない状況でした。知り合いに久しぶりに会い、その日に初めて会った人とも、食事をしながら話が盛り上がった記憶があります。

その場で、電話番号を交換してまた集まってはどうかという話になりました。散会后、数名で喫茶店でコーヒーを飲みながら、次回はいつ集まるかなどと話し合いました。

大熊町からコミュニティを作ってはどうかという話があって、皆に話したところ「じゃあやろう」ということになりました。それが 3 月 20 日頃。その間、復興支援課とやり取りをし、他の町のコミュニティの状況などを聞きながら準備しました。4 月 17 日に第 1 回打ち合わせを実施し、実質的に活動を始めることとなりました。

当時、大熊町では、復興支援課の臨時職員が各地の避難者の所に行き、元の町内会のようなものを作るお手伝いをしていました。今でも、全国に活動している会があり、これは今後もなくならないと思います。

会員・会の運営について

設立当初の会員は、町の懇親会に参加した方と、会員からの紹介で 38 人集まりました。仙台や山形を中心に、福島の新地町や青森の大間町など東北各地から集まりました。5 月 15 日の町の広報にも仮称でフレンドリー東北が会員を募集すると載せてもらいました。

当時の会員の年齢層は 6 歳から 80 歳くらいまで。最年長の方は今でもお元気です。比較的高齢者が多いです。仕事をしているとどうしても出てこれないですからね。その中で役員を 6 人選んで、役員が案を持ち寄って活動を計画します。

3 月 11 日に大熊町に住んでいた方が対象ですが、会員が町外の人と結婚した場合、家族会員のような形で一緒に活動するようにしています。会員にはぜひお孫さんを連れてきてと言っています。大人ばかりより、子どもがいると話題が広がりますからね。

町の広報に載せるためには、2 か月前に出さなければならぬので、なかなか予定が立てられません。町のホームページに掲載してもらったこともありましたが、現在の連絡方法は LINE や電話。現在、最高齢の会員は 85 歳ですが LINE をやっています。メールや LINE を使える人が多いので助かっています。

会の活動

催し物の内容によって、それぞれ参加できる・できないが変わるので、役員で考えて「この日は何をする、この日は何」と毎年事業計画を立てます。

年に1～2回は1泊旅行をしています。それとは別にサクランボ狩りや温泉など日帰りの活動もあります。移動は、高速バスに乗るか、一般のツアーに申し込む形でやっています。どうしても仙台出発になるので、参加者は仙台市内の方が多くなりますね。

旅行にはなかなか参加できない方もいます。そういった方でも合流できるように、彼らが車で1時間くらいで来られる温泉地を予約して、そこにみんなで集まって交流することもあります。1泊の旅行のうち年に1回は、そういうやり方でやっています。山形のかみのやま温泉や盛岡のつなぎ温泉に行ったこともありました。皆さん今度はいつ会えるかと楽しみにしています。

コロナ禍での活動

昨年（2020年）来、コロナ禍でなかなか会員で集まることができません。それでも会員どうしの繋がりを維持したいと考え、昨年度（2020年度）には、12月に会から会員の皆さんに、「コロナに負けるな応援ギフト」として、果物などを贈りました。それがきっかけで、連絡が遠のいていた方とも話ができたりました。

今年度もワクチン接種がある程度進んでから活動を再開したいと考えています。

コロナ禍でも健康には留意してほしいということで、皆さんには近場でもよいから1時間くらい歩くこと、引きこもらないで、と呼びかけています。テレビばかり見すぎると足が固まって歩けなくなる、車では景色が見えないが歩くと新たな発見があると話しています。

個人的には、こちらに来てから誘われてパークゴルフを始めました。宮城県内のパークゴルフ場に行くと、浪江町などから来ている方と会うこともあります。会員もそれぞれスポーツクラブや俳句の会に入ったりしていて、孤立せず地域に溶け込むように努力はしているようです。

みんなで食事を作って食べる交流会も、設立直後にやったことはありました。ただ、会員はいろいろな場所から参加するので、仙台まで食材を持ち寄るのが大変でした。そこで、かかる費用は同じなので、ランチ会の方が良いということになりました。会員がおいしかったと言う店を聞いて予約する。人数を言うだけで手間いらずなので簡単です。

ランチ会は2ヶ月に1回、年に4～5回開催しています。その都度皆さんの予定を聞いて開催します。どのような物を食べたいのかも皆さんに聞いて、人数は20人くらいまでとしています。

会の活動には、町からの補助金があります。補助金は、会員数に応じて決まっています。その他に、毎回、参加費を内容に応じて一人500～1,000円くらい集めて開催しています。子どもは無料にしています。



「フレンドリー東北」会長の木幡 伸夫さん

（取材日 2021/6/8 仙台市太白区中央市民センターにて）

フレンドリー東北さんでは、取材の後、2021年の年末から、活動を再開されたとのことです。

大熊町のホームページには、全国につくられた町民コミュニティの活動の様子が掲載されています。

・町民コミュニティ（大熊町 HP）

<https://www.town.okuma.fukushima.jp/site/community/>

・フレンドリー東北（2018/12/28 Youtube）

<https://www.youtube.com/watch?v=6VTZADb5k5s>

■ ふく⁴しま仙台サロン コロナ禍を乗り越え、活動継続中

「ふくしま仙台サロン」は、福島県から宮城県内に避難されている方々が日常的に交流を深めることができるよう、誰でも気軽に参加できる内容で2017年度から開催されているサロンです。双葉郡浪江町や、南相馬市小高区からの方が多く参加されています。

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中ですが、「ふくしま仙台サロン」は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出されている時期は避け、感染対策を徹底した上で活動を継続しています。

●第1回ふくしま仙台サロン「七夕飾り吹き流し作り」

日時 2021年7月14日(水) 10:00~12:45

会場 仙台市太白区中央市民センター 3F 大会議室

参加 11名(浪江町民10名・南相馬市民1名)

コロナ禍で家にいる時間が増えたこともあり、持ち帰って家でも作業をできるように、吹き流し2個と折り鶴の材料を用意しました。鶴を折ったのは小学生以来と、ほとんどの方が折り方を忘れ時間がかかったりしましたが、皆さん楽しみながら作られていました。



●第2回ふくしま仙台サロン「クラフトテープ小物入れ作り」

日時 2021年10月27日(水) 9:30~16:00

会場 仙台市太白区中央市民センター 3F 第1小会議室

参加 10名(浪江町民9名・南相馬市民1名)

講師 岡戸陽子さん(双葉町出身)

柴田町社協主催の「交流サロンさくら」でも活動されている岡戸さんに講師になっていただき開催しました。クラフトテープを1本1本編んで、素敵な小物入れを完成させることができました。



●第3回ふくしま仙台サロン「浪江町の伝統文化について語ろう」

日時 2021年11月10日(水) 10:00~12:00

会場 仙台市太白区中央市民センター 3F 中会議室

参加 10名(浪江町民)

ゲスト NoMA ラボ 代表理事 高橋大就さん

「新しい町を創る前に、まず町の歴史、伝統、記憶を学びそれを未来に繋いでいくことが大切」との想いで活動されている高橋大就さんをお招きし、昔の浪江町の思い出や、町の文化・伝統芸能などについて話し合う場として開催しました。



この「ふくしま仙台サロン」は2021年度から日本財団の助成をいただき開催しています。

【発行者・連絡先】

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋 254 ニューメゾン土樋 201

電話: 022-353-7550 FAX: 022-397-7230

メール: info@tohokuconso.org

Web: <http://tohokuconso.org/>

「いこい通信」は2021年度日本財団助成事業の一環として発行しています。

Supported by
**日本財団**
THE NIPPON FOUNDATION